

第35回 講演会を開催いたしました

去る2月26日(火)ソニックシティホール国際会議室にて、健康保険組合様、企業ご担当者様、また当クリニックのシルバー倶楽部会員様など約130名をお迎えし、毎年恒例となっております講演会を開催いたしました。

今回のテーマは『人間ドック健診—その過去・現在・そして未来—』と題し、日本人間ドック学会理事長 篠原幸人先生にご講演頂きました。人間ドックや健診のはじまり、現在および今後起こりうる問題点、果たすべき使命や今後の方向性など、幅広くご解説いただきました。

感染症の現状

最近、我が国では風疹の流行、世界では新型インフルエンザ感染の発生などがニュースになっています。我が国は環境衛生先進国ではありますが、決して十分な防疫体制とはいえない面もあり、これからも新しいタイプの感染症が人々を悩ませることがあると考えなければなりません。

その大きな要因はグローバル化です。2013年のエボラ出血熱の流行は、アフリカの奥地にしか存在しなかったウイルスが航空機により運ばれ、広範囲の流行となりました。これはどの国でも起こりうる事案であり、現在世界でどんな感染症が発生しているか、情報を常に更新する必要があります。

①日本で発生するかもしれない新興感染症

デング熱 ジカ熱 チングニア熱

SFTS※ 新興回帰熱 アナプラズマ症

MERS※※ 鳥インフルエンザ

感染経路：蚊

感染経路：ダニ

感染経路：飛沫



②日本ですでに患者が発生している感染症

風疹 結核 インフルエンザ

感染経路：飛沫

③海外での流行がある感染症

マラリア デング熱 ジカ熱 チングニア熱

MERS 結核 ペスト

感染経路：蚊

感染経路：飛沫、接触

※重症熱性血小板減少症候群 ※※中東呼吸器症候群

①については、国の防疫体制の強化しかありません。②については、いずれも予防接種があり積極的接種が勧められます。③については、まず海外に行ったら蚊に刺されないよう対策することです。外出時は長袖、長ズボン、靴下を着用し、虫除けスプレーを使用します。但し、わが国で販売されている虫除けスプレーの有効濃度は海外の物の5分の1程度のため、海外での使用は現地のもので推奨されます。

感染地への渡航はなるべく控え、生水(氷を含め)は避け、市販のアルコール含有の除菌シートで手に触れるものは念のため清拭することがおすすめです。アルコールは殆どの細菌ウイルスに有効ですが、揮発しやすいので常に新しいものを用意する必要があります。

先ごろ中国高級ホテルでの清掃がひどい状況と報じられていました。2004年SARS(MERSと同じウイルス)が香港で流行したのはそんな清掃作業が原因との調査報告書がありましたが、以前の反省はなく、未だに同じであるのは驚きですが、海外はそんなこともあると考えていた方がよさそうです。

医師 中川 一美

当院における経鼻内視鏡検査の鼻出血の現状について

今回、当院の経鼻内視鏡検査での鼻出血の発症率と、鼻出血の対処法の安全性について検討しました。

調査対象は2018年1月17日~6月30日までに経鼻内視鏡検査を実施した5,734名、そのうち男性が3,484名、女性が2,250名、平均年齢は51.9歳です。調査の結果、当院での鼻出血の発症率は5%でした。(全国14施設のアンケートによる報告では1~10%)

当院での経鼻内視鏡検査における前処置は、胃の泡を消す薬を内服した後、鼻腔を広げる薬を鼻に噴霧し左鼻にゼリー状の麻酔を注入、咽頭にスプレー状の麻酔をします。これは消化器内視鏡ハンドブックに示されているスティック法の応用ですが、いわゆるスティックと言われるネラトンカテーテルの留置を行わずに、最後にスプレー状の麻酔を咽頭に噴霧しています。当院でカテーテルを使用しない理由は、盲目的なカテーテル挿入に伴う鼻出血の誘発を減らすことと、挿入時の刺激による受診者の苦痛が少ないことを期待したものです。当院での鼻出血の頻度が全国平均と同等であったことから、前処置をはじめ安全に検査が行えていると考えられます。

また、鼻出血の傾向として39歳以下の若年者に多く、特に女性に多く認められました。若年の女性に鼻出血の割合が多かった原因として、鼻腔が狭いことが一因と考えられます。

季節での傾向は、冬季の乾燥した時期に多く認められました。秋季から冬季にかけて、湿度の低下に伴い鼻出血は増加傾向にあり、出血には季節性が示唆されます。これについては、今後も引き続きデータを集積し検討していく考えです。

内視鏡終了後、鼻出血がある場合は止血剤入りの綿球を挿入し、鼻梁を1分間圧迫止血しています。その後、30分毎に出血の有無を確認し、止血しない場合は綿球を交換しています。もし帰院後も止血しない場合は、耳鼻咽喉科の受診を勧めています。綿球使用回数の割合は、1回80.4%、2回14.5%、3回以上4.5%でした。9割以上の方が2回までの止血処置で止血しており、また耳鼻咽喉科を受診された方もいなかったため、当院での対処法は有用であると考えられます。

看護部 岩崎絢子



健康相談室だよりは当クリニックホームページにも掲載しております。バックナンバーもご覧いただけます。

ご意見・ご要望等ございましたら、遠慮なくご連絡ください

ホームページ URL : <http://www.omiyacityclinic.com/article-letters/>

ご意見・ご感想 : sodan@omiyacityclinic.com

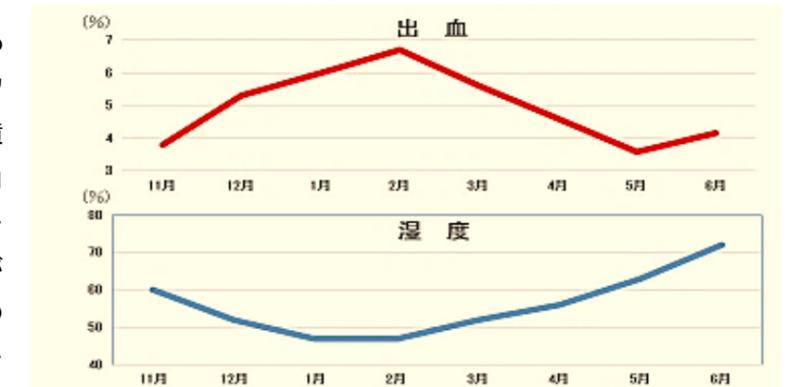
医療法人 大宮シティクリニック 健康相談室



男女別年代別 鼻出血割合



各月での出血の程度・湿度



	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
出血 (%)	3.8	5.3	6.0	6.7	5.6	4.6	3.6	4.2
湿度 (%)	60	52	47	47	52	56	63	72